

修練

一般社団法人にいがた北青年会議所

2013年度スローガン



実践躬行

～北区の明日（未来）に今できる事～
歴史と伝統・誇りを胸に

2013年度 8月号

7月例会

北区野菜彩りぐるめマップ作成報告 オリジナルメニュー試食会



7月8日、新潟市北区の長岡屋にて、一般社団法人にいがた北青年会議所の7月例会として『北区野菜彩りぐるめマップ作成報告 オリジナルメニュー試食会』が行われました。

今回のぐるめマップ作成は、北区の特産品であるトマト、ナス、そして近年生産が奨励されているサツマイモを使用したオリジナルメニューを参加店舗が提供することにより、北区の特産物、北区の飲食店のPRに繋がります。また、その作成事業を主催する当青年会議所の活動を広く認知してもらうことにも繋がります。そして青年会議所オリジナルメニューとして「新・北区の三銃士スープ」を考案しました。このメニューは今回の三種類の野菜をすべて使用したビシソワーズです。このオリジナルメニューをイベントで試食してもらい『北区野菜彩りぐるめマップ』のPRに役立てることになります。7月27日（土）に行われました豊栄商店会まつり（他門）に出店いたしました。その模様は次号にて紹介いたします。

試食したメンバーからの評価は上々でした。



ナイスな顔で登場の本間亮君からもおいしかったとの評価でした。



「新・北区の三銃士スープ」暑い夏の日にはもってこいの食べ物です。



理事長・監事選出委員選出選挙



7月例会と同日に、次年度理事長・監事選出委員、選出選挙が行われました。時間が過ぎるのは早いものです。しかし、今年はまだあります。最後まで気を引き締め今年を成功裏に終わらせましょう。

北陸信越地区フォーラムIN新発田

7月13、14日に北陸信越地区フォーラムIN新発田が行われました。北陸信越地区協議会会長 稲垣勇一君の挨拶に始まり粛々と式典が行われました。その後の大交流会も大いに盛り上がりしました。当LOMメンバーは事業である匠のたからいちの運営の応援に行きました。小林理事長はオープニングセレモニーのアダバルーンリリースに参加しました。



新入会員の渡邊和也君も頑張りました。



来年、当LOMは30周年です。



満面の笑顔の小林理事長



4LOM合同事業

7月14日、新発田にて、毎年恒例の4LOM合同事業が行われました。今年は各地の物産の販売して地元のPRをすることになり、当LOMからは桃太郎（トマト）ジュースとにんじんジュースを出品して販売を行いました。



家族で頑張りました。8月25日に行われます家族交流会の参加も皆さま、よろしくお祈りします！

理事長対談2013

2013年度の理事長対談は地域で活動をしている団体の代表者からお話をお伺いすることにより、青年会議所として地域のために何が出来るのか、地域のニーズを探る企画です。第5回の対談者は、



阿賀野川ござれや花火実行委員長
(協)北新潟商工振興会顧問 小柳 蔵人 様

一般社団法人にいがた北青年会議所
小林直人 理事長



理事長 どなたに聞いても昔から北地区のまちづくりにご活躍されて、北地区のことにしましては小柳さんしかいないということ、今回、このような機会を設けさせて頂きました。今回は理事長対談として北地区の代表の方とお話ができるということで、楽しみにしてやって来ました。合併をして10年、区制が施行されて、6、7年が経ちますが、合併に関して問題点や感じるところはありますか。

小柳氏 西部郷という言葉聞いたことはありますか。昔は北蒲原郡西部郷、ここは松ヶ崎濱村と呼ばれていて、当然豊栄も北蒲原郡葛塚町でした。その当時は北蒲原西部郷と一緒に運動会をやったり、いろんな大会があったんですね。そういう時代にはひとつの連帯感というものがあったと思います。あれから約50年以上経過していますから、時代が変わってきたんですね。

小柳氏 単独の自治体であった豊栄と旧新潟市の一部であった北地区とはいろんな面でおおよそ違いがありました。それでも、一緒に手を携えてやっていけば、一緒に成長していくことができるという思いを持っていました。私は合併をしたことで、不足のことよりも、それを発展的に考えるほうが良いと考えます。だから、合併で何か苦勞があるかと聞かれれば何もありません。むしろ、いい仲間と出会えた、いいパートナーと一緒にやっていると考えています。私自身は期待を持って一緒に取り組んでいくという意味で、協議会の委員になってから、合併のひとつの醸成として、形として伝えられるものを作りたいと考えていました。それで桜を始めたんですね。

理事長 その話も是非お聞きしようと思っていました。

小柳氏 日本人はだいたい桜が好きなんですよ。この北区を唯一新潟8区の中で本当にいてみたいと思われような北区作りをしましょう。それには桜を植える。予算を下さいといいました。それも北区という地域全体でやりたい。それがひいては豊栄と北新潟を繋げることが出来るのではないかと。だから桜を繋ぎたいという話をしました。ただ、普通の桜では面白くないので名だたる名木を植えたい。それによって北区に行くとき全国の名木が楽しめるようにすれば、売り込めるのではないかと。そこから派生して加工物ができれば小さな産業に発展していくのではないのでしょうか。そこで、地域の人達が桜をテーマにしたイベントをすることもできるでしょう。そのような話を自治協議会の場で何回もしていたんですね。まず、動きましょ、動かないことには結果は出ないんだからという話をしていました。

理事長 私達は青年経済人の団体なのですが、小柳さんと話をしていると、まるで私達のメンバーと話をしているような感じを受けて、すごく楽しそう、我々もまちづくりの話をするときは、どんどん意見を出し合っています。今は祐三君がメンバーですが、失礼ながら、どうですかうちのメンバーにと誘いたくなるような感じさを受けてしまいます。

小柳氏 僕はね(笑)。実は新潟JCのOBなんですよ。だから、綱領なんかよく知っているんですよ。だから、波長が合うんですね。

理事長 すごく、納得しました。北地区の青年、豊栄の青年とか関係なく、北区の青年に対して、こうしたほうがいいというアドバイスはありますか。

小柳氏 僕は今68歳で、今度69歳になります。それも花火が上がる日が誕生日なんですよ。だから、その日に花火を上げたんじゃないですよ(笑)。私は親が早くに亡くなって28歳で引き継いだのですが、当時はいろんなことが分からない状態でした。分からない時はどんどんと求めてください。いろんな人にいろんな話を聞くことですよ。それでどんどん提案してください。それが可能か不可能かはどうでもいいんですよ。そして、小さなことでもいいので、確実に行動を起こすということなんです。議論するだけでは駄目なんです。行動しないと。



小柳氏 まあ、昔の話をして何ですが、参考までに申し上げますと、この商店街も昔は取り立てて何もなかったんですよ。私が当時、青年部長をしたときに、松浜の商店街で民謡ながしでもやりませんかと先輩達に話を持ちかけました。いろんなところに声をかけて、500人、600人になって民謡ながしをやりました。また、秋田の竿燈を参考にして灯りを作ったりもしました。回を重ねる間に、市場通りまでいった年もあれば、小学校の手前までいった年もありました。最大1800人までいった年もありました。その実行委員長をやって17年間くらい民謡ながしをやりました。しかし、だんだん運営をする人手が足りなくなりました。各コミュニティーに協力をお願いしてもなかなか人が出てこない。おまけに花火をやることになって、余計に人手が必要になって、23日に民謡ながし、24日に宵宮、25日に花火となると準備をする側は大変なものです。踊り手も高齢化し始めて結局、民謡ながしやめることになりました。

理事長 ずいぶん勿体ない話ですね。
小柳氏 そう、勿体ない！これをまた再開するのであれば、3倍、5倍のエネルギーが必要になります。それで、失ったものはとても大きいのです。民謡ながしにはいろんな人やお店が関係しているのですから、特に失った経済効果は大きいのです。

理事長 そうですね。踊り手は勿論、見物をする人もいるのですから、人が動く、物が動くという意味で経済効果は大きいと思います。葛塚まつりでも民謡ながしの踊り手が減っています。それでもやる意味というのは、伝統や文化の継承であつたりするわけです。それを守るもの我々青年の役割だと考えています。

小柳氏 まさにそのとおり。実は花火も土日開催にしてほしいという話がありました。それでは単なるイベントでしかないですよ。やはり、そこには神事があり、魂があり、信念があるわけです。その意味が分からないようでは後世には残せないのです。伝統的な文化財産なんだという意味づけをしないと守りきれません。いろんな話がありましたが、それでも結局は変えないで今日に来ているんです。

理事長 やはり青年会議所を経験されたということもあるのでしょうか、とても熱い気持ちが伝わってきます。

小柳氏 やはり、「ぶれない」ようにしなくてはならないですね。みんなでひとつの芯を打ち立てたら、それをまずやるということ。やったら、まず良かれ悪しかれ結果を出すということ。その結果を受けてどうするかということは、早いうちに再検討すること。ダラダラでは駄目です。一年くらいスパンで考えるのであれば、ピッチを上げないと間に合わないですよ。花火にしても終わると、9月の末に反省会があります。だんだんやっているうちにマンネリ化してしまうのです。それでは、困るのもっと早くやるようにいっています。

理事長 私達もよく会議で「ぶれるな」といっています。ただやりたいことだけをやろうとすると必ずぶれるのです。背景があって、目的があり、その中で手法を考えて、そして最後は検証する。これをやらなければ次へと繋がらないと思っています。

小柳氏 地域のために活動している皆さんと縁をさせて頂いた祐三は幸せだと申し上げてはいるのです。やはり、仕事も団体も家業も商売もグループ活動も同じです。まったく同じです。一人ひとりの集合体ですから、考え方をひとつにして、そこに集まる人が本当に理解をしているのかということだと思います。

小柳氏 それに時間をかけることは必要です。それでひとたび決まったらなれば、みんなでやり遂げる。JCの皆さんには、若潮のように大いに発憤して行動してもらい社会に提案してもらいたい。

理事長 結果は後からついてくるものなので、私達は失敗してどうこうということはないのですが、行き着く過程までにやることをきちんとしたのか、ここを急ぐ時は私も長として厳しくいいます。一生懸命やった過程があって、それでも失敗したのであれば、それは財産であり糧に思ってもらえれば良いと思っています。それでも諸先輩からは活動に対して、昔に比べてまだまだパワーが足りないと言われていました。

小柳氏 そんなに難しく考える必要は無いですよ。ごく自然体のなかで、北区にならなればよかったらいいの、将来、北区はどうあったらいいの、どう考えたいんです。昔は何もなかったの、やりやすかった点もありますよ。その中で、歩行者天国を企画したり、松浜太鼓の立ち上げに参加したりしたんです。思いついたら何でもできます。特に若いうちはやれるんですよ。それで先ほどの桜の話ですが、松浜の稲荷神社で平成22年11月に行った、ござれや桜の修祓式の様子です(写真を見せながら)。

理事長 桜の植樹は2、3年前から行われていたんですね。この前、会議資料を見させて頂いて始めて知りました。

小柳氏 北区全体の合併の醸成としてのひとつの姿として桜を植えようということを提案しましたが、それにはまず足元から固めなくてはならないということ、この地域から、小さいものから増やしていけばいい話です。そこから発展していかなくてはならないと思います。そして、この事業が100年後に地域にどのようなメッセージが送れるのかということが大切なんです。

理事長 北地区のことも、豊栄のことも含めて北区全体のことを考えていると感じました。北区がひとつになったと言われても、まだ見えない壁があると思っている人がいることは事実だと思います。でも、私達は青年としてそのような壁を壊して、このまちがひとつになる方向を作っていくということを考えて活動しています。最後に北区の青年に向けてエールをお願いします。

小柳氏 北区に留まることなく、みんなのちからで声を出し合って、発展的に勇気をもって行動してください。それが必ず地域にも社会にも還元されることになると思います。そして、広く多くの人達と交流を持つこと、是非活躍してください。

理事長 本日はありがとうございました。

